

HAND in HAND

はんど・いん・はんど

【いつでも相談を——24時間の110番体制】

■20代の頃のことですが、私の大学の先輩で、新聞社の先輩でもあった友人が自殺しました。その1週間前の夜に電話があり、私に会いたいと言ってきたのですが、私は新聞社をやめて大学の研究生として勉強していた頃だったかと思うのですが、すぐに会う都合がつけられませんでした。4~5日経って何度電話しても彼女に連絡が付きません。そして彼女がガス自殺したのを知ったのです。

■その原因はわかりません。でも、あの時、私が彼女に会っていたら自殺を思いとどまってくれていたかもしれないという悔いが、その後ずっと私の心に沈殿しています。

■1979年3月にニコニコ離婚講座を始めて以来、個人的に相談を受けることもできました。中にはこちらの都合におかまいなく、電話をとったとたんに、「彼と別れるくらいなら死にたい。今から手首を切ります」という人もいました。「すぐ飛行機に乗って相談に行きます」という人や、電話もなく玄関口に立っている人もいました。

■他人から見れば、明日でも明後日でもいい問題であっても、当事者にとれば、とにかく誰かに話を聞いてもらいたいという切羽詰まった状況なのでしょう。そういう人たちのために、相談員を養成し、離婚110番を長年続けてきましたが、土曜日の限られた時間だけのため、「電話が繋がらない」との苦情がいつも寄せられています。

■今回1年がかりで準備して、やっと24時間体制で、いつでも相談を受けられることになりました。NTTドコモの協力を得て、携帯電話から聞ける情報サービスです。マンツーマンではないので情報を得るだけですが、私が吹きこんでいますので、落ちこんだ時、少しでも気晴しになるかと期待しています。#9125で1度聞いてみて下さい。項目メニューは03-3237-6786でFAXがとれます（エリアは関東甲信越のみ）。（円より子）

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。

189

第189号 600円 禁無断転載
【発行日】1999年11月1日
【発行所】現代家族問題研究所
【連絡先】〒102-0082 千代田区一番町4-6 一番町中央ビル2F
TEL : 03-3261-1835 (分室)
FAX : 03-3261-1836
ホームページ <http://www.madoka.nu/>
【発行・編集人】円 より子
【スタッフ】向井通江 橋本由実
【印刷】(株)日出島

逐次刊行物
〒11.11.10
国立婦人教育会
婦人教育情報センター

勇気は「幸せ」の扉を開く

— ハンド会員の離婚経験談 —

(東京・38歳)

朝、目覚めると、眩しいくらいに太陽の光が燦々と部屋の中に差し込んでくる。「ああ、一人の生活になったんだなあ」と、実感を察しむ間もなく、寝ぼけ眼の子ども(小4・10歳)を学校に送り出し、いつものように駆け足で8時23分の電車に飛び乗る毎日だ。

満員電車で揺られながら、一日の始まりに感謝をし、会社のある銀座へと向かう。

以前と比べて、生活のレベルはうんと低くなったが、心の豊かさは例えようもないくらいに満ち足りている。夜もゆっくり眠れるようになり、朝ものんびりとしていられるようになった。

一番変わったのは、一人息子の悟だろう。夫と暮らしていた頃は、それこそ朝は6時に起床し、夜は必ず10時までには眠るといった生活で、おまけに宿題は学校から帰ったらきちんと終えていて、まるで絵に描いたような良い子だった。「このままいったらどうなっていた

ことか？」なんて、心配することもなかった。

案の定、離婚をし、二人になってからは、のびのびしたせいか、朝はいつまでも寝ているようになり、夜も「早く眠らないと学校に遅刻しちゃうよ」と言わない限り、起きていようにならなかった。

私自身も、帰宅時間や食事の間、友達に電話をする時間など、とにかく生活リズムが変化した。寂しくなれば近くの友達とお茶してみたり、何でも話せる女友達に夜な夜な迷惑コールをしている。

子どもも越境通学をしているので、それなりに大変かと思うが、以前と同じ友達と仲良くしている。お互いの家を行ったり来たりしているの、たまたま私の休みにぶつかるともあり、布団を敷いて寝ている私の姿を見ても、案外子ども達は平然としている。

以前は4LDKに住んでいたの、子どもが何人来てても大丈夫だった。今は2Kなので、玄関の下

アを開ければ、全て隠しようもない。それでも子ども達が来ても、自分をエラソウに見せなくなった私になれたことが嬉しい。広いマンションに住んでいた時には、子ども達が来るだけでも煩わしかった。自分の個室があったので、ドアを閉めさえすれば子ども達の声も聞こえないので、快適な部分もあった。それが、この変わりようは何だろう。人間とはいとも簡単に環境に馴染むものかも知れない。

離婚をし、新しい住まいに移ってから一ヶ月と少し。ここまで来るのに大変だったと思うのに、私の中では遠い遠い過去になってしまった。

そもそも始まりが悪かったのかも知れない。「生理的に好きになれない」ということは、最初の頃から幾度も感じていた。「じゃあ、どうして夫婦になったの？」と聞かれると、「打算だったのかも」としか、答えられない。

いずれにしても、離婚が自分の目の前に突然現れるなんて思いもしなかった。「このままでいいのかなあ」という気持ちはあったが、あくまでもぼんやりした考えしかなかった。

しかし転機は突然にやって来るもので、うかうかしてはいられない。

●新しい自分に生まれ変わる瞬間
学校のPTAの広報委員長をしていた時のことだった。教育の特集を組むことになり、インタビュをする人物を選ぶことになり、ある著名人に決まった。その人とは縁があり、以前にも講演を聴きに行ったことがあった。そんな記憶を辿りながら、勇気を出して会いに出かけた。そのことが私の人生をこんなにも大きく変えようとは、夢にも思わなかった。

彼のインパクトは強く、会った瞬間に稲妻に打たれた感覚だった。あっと言う間にインタビュの時間が終了した。

その後、インタビュのゲラを持って再び会った時のことだった。「君は、自分の人生を本当に生きているの？」と、いきなり言われた。あまりにも突然のことで、一瞬間が真っ白になってしまった。そう言われてみれば、生活に困らないレベルで暮らし、夫は浮気をする訳でもなく働き、真面目に帰宅する。子どもにも手が掛からず、普通の幸せを感じていた。だからこそ、彼の言った言葉は私の体をか

けめぐった。

彼は言った。「もっと、もっとと世界は広いんだよ。いろんなものを見て、自分を外側から眺めてもらえ。君は向上心があるんだから」と。嬉しかった。結婚をして、生活に甘んじていたにも関わらず、世の中には、ちゃんと私の長所を認めてくれる人がいることに、感謝をした。

夫にその出来事を話すと、「お前は、ただその人に出会ったことが強烈で、熱に浮かされていただけなんだよ」と、取り合ってもらえなかった。「ああ、感性が違うんだなあ」と、思い知らされた。数日間、自分の生きてきた人生を、嫌でも振り返らざるを得なかった。

夫との一番の違いはセックス観

さん



かも知れない。セックスは、日常の感情と大きく結びついているので、私は愛情が冷めてしまえばできない。そのことに夫はとても鈍感な人だった。私が拒絶すると、怒りの感情をむき出しにし、「明日からの生活費は入れないから」と、啖呵を切るのだった。

最初の頃は、私も働いていなかった。半ばあきらめながらも、夫の行動をやり過ごしていた。そんな時の彼との出会いだったので、「夫とはもう暮らせない」という結論が、いとも簡単に下された。

●行動に結果はついてくる

それからが大変だった。何から始めていいのかもわからず、取りあえず、円さんの著作物を探し、自分で購入したり、図書館で借りたり、ほとんど読んだ。その中でわかったことは、「人間、本当にやる気にさえなければ何でもできるし、思いもかけない力も湧いてくる」ということだった。

何も特別な人が離婚をする訳ではない。「自分の人生を真摯に見つめ直し、再度自分の力で新しい道を拓いていこうとする、前向きで元気な人たちの道」と。

円さんの本を読み、活力を得た

私は、早速、ニコニコ離婚講座をのぞいてみることにした。離婚講座はとても暗いものだというイメージがあったが、大間違い。いろいろな世代の人が参加していて、話を聞くだけでも参考になった。実際に離婚をして生活している人を見ていて、いつも感心するばかり。「いつになったら、自分も彼女達のように自信を持って生きていけるのかなあ」と、帰る道々思っただけだった。

離婚講座に通い出し、離婚に対する方法とも言うべき手順がわかってきたのと同時に、夫との仲も悪くなり、ある時急に、「完全に生活費を渡さない」と宣言された。職がまだなかった私は、「少しの間だけ待ってほしい」と、職探しに奔走した。幸い、ある程度働いた経験があるので、子どもが10歳と大きくなっていたこともあり、すぐに派遣社員としてまあまあの給料で採用が決まった。

今から考えると本当にラッキーな出発だった。家からの通勤距離も短く、残業代も25%アップになるので助かった。何と言っても、子どもが自分のことを何でもこなせたことも、私が仕事に没頭できた

大きな要因だと思う。

そうこうしているうちに、夫との離婚話が進み、養育費も慰謝料も何も請求しないことを条件に、離婚届にやっとサインをしてもらった。サインをした後も、「字が汚いからもう一度書き直す」とか、「確認したいところがあるから見せてくれ」など、夫の心がグラグラ揺れているのがわかったので、信用のおける友人に書類は預かってもらうことにした。

離婚届に判を押したものの、夫の本心は、「こいつの離婚願望は口だけで、まさか家を出て行くことはないだろう」と、高をくくっているのがある程度感じられた。私も、住居が広く、環境の至便さから抜け出せず、無駄な時間を要してしまったかも知れない。でも、今は、離婚への準備として、考える時間があったからこそ良かったのだと言える。

子どもが小学校を卒業するまで、そのマンションに住む予定だったが、夫の精神的暴力と酒乱が度重なり、私も決心せざるを得ない状況に陥った。一番嫌だったのは、私の異性関係を疑い、ネチネチとことあることに責められることだった。

た。きっと夫は自分に自信がなかったのだから。

「離婚をするには今しかない」と、気持ちが決まった瞬間、私の環境は激変した。仕事も願っていた通り、不況にも関わらず、編集の仕事に就くことができた。面接に行く時間もあまりなかったで、「どうか即決で」との思いは通じ、面接に行った日に決まった。

住む所も探す時間がなかったのと夏の暑さで、一度不動産を見に行ったものの、疲れて寝込んでしまった。家を出ていく日が決まっていたのに、気は焦せるばかりで体がついていけない。すると、隣のマンションに引越して来た人が、この近くで不動産屋を経営していることを知り、すぐさま電話。すると、「まかしておいて、値段と場所の希望の所を2、3日中に探しておいてあげるから」と、思ってもみない返事。「ああ、神様はいんだなあ」と安心して、また日常生活に戻った。

住まいは確保したものの、引越はどうしよう。お金の余裕はあるはずもなく、ましてプロに頼むとなると、思案していたら、妹から電話。「、本当に離婚

するの？ 今住んでいる所はどうするの？」と聞かれ、「引越しようと思ってるの。」「そうなんだ。引越し手伝うよ。それと保証人も必要なんだろう？」と、嘘のようには話がどんどん進み、離婚への波が一挙に訪れた。

普段交友のなかった離婚した友人が、我が事のように心配してくれ、新しい住まいの掃除、食事、新居に移ってから手違いでガスが使えなかったのも、しばらくお風呂をも貸してくれたりもした。

●離婚ってなんて素敵なこと

今、私は幸福だ。子どもと一人、経済的には貧しいけれど心は豊かであり、何と言っても精神が自由である。きっとこれからも辛いこと、苦しいことはあると思う。でも、離婚という人生の最大の危機を乗り越えたからこそ、何があっても怖くない。離婚を経験できて本当に良かったと感謝している。人の優しさ、痛みを少しでもわかったことが私の財産となった。

最後に、私を支えてくれた人に最高の敬意を表し、今度は私が力になれば、という思いでいっぱいである。円さん、ハンドの皆さん本当に有難う!!

★ハンド東京の会合報告

ハンド東京では偶数月に、円より子宅で会合を開いていますが、10月は15日(金)に午後6時半から行いました。参加者は12名、円も遅れて参加しました。

皆さん仕事を終えて駆けつけていらしたばかりなので、まずお弁当を。初めて参加の方もいらっしやるので、自己紹介がてら、現在の状況を一人ずつ話して頂きました。

Kさんは、長女(23歳)の就職が決まらないこと、息子さん(16歳)が小・中学校と不登校で、都立高に入っても1ヶ月で辞め、現在フリーターをしていることが最近の悩み。Iさんは、埼玉の田舎で、跡取り娘で夫に婿として入ってもらったが合わず、離婚し6年。これからの人生、自分をわかってもらえる人と出会いたいとのこと。

Nさんは、昨年の夏、夫に女性がいることがわかった。夫は超エリートで、品があり、そつがない。その表と裏に、また周りの人の裏側にこの1年間みてしまい、体に出てしまった。娘(20歳)も精神的にまいり、もう限界に来ている。

Aさんは、1月末に離婚。何の準

備もできず、子どもを連れ飛び出した形でしたが、今では40キロを切っていた体重が元に戻り、新しい世界が開け楽しいことばかり。

Mさんは、1年半前から離婚講座に通い、離婚したくても踏みとどまっていたが、8月に離婚。円の本と出会って良かった。

Yさんは、突然夫に別居を言い出され、別居して4か月。女性がいることがわかり、今度は離婚を言い出された。青天の霹靂で、自信喪失、自己嫌悪で、10キロやせてしまった。もうどうしていいかわからず、毎日涙が乾かない。

そう話しながら、涙の止まらないYさんに、今回仕事で上京されていた、熊本の世話係の田中さん(保険会社で優秀社員として表彰された)と、大分の世話係の上野さんは、離婚した10数年前は、自分達も涙が止まらなかったこと、子どもを抱えて自立の道を模索した時の辛さ苦しさを話して、励まして下さいました。

お互いの近況を話すだけで時間が過ぎ、テーマの「恋愛・再婚と子どものこと」については話せませんでした。改めてお互いの存在の有り難さを感じた会合でした。

家計簿公開



第124回 神奈川 Kさん

〔家族構成〕

私 47歳（ホームヘルパー）

長男 13歳（中学2年）

長女 10歳（小学4年）

母 72歳（無職）

〔住居〕

賃貸マンション（3LDK）

★

離婚して1年、生活のための仕事を探し、また自分自身のこれらの道を探し続ける毎日でした。そのせいか、離婚を考え、悩み、苦しんでいた2年間が遠い昔のようにも思えます。

家賃は、兄弟の援助を受けているので、せいたくをせず、無駄な出費を防ぎ、少ない給料でも、何とか離婚前とあまり変わらない生活をしています。また離婚と同時に母と同居を始めたので、何かと助かっています。

小さいながらも田舎にマイホームを購入し、住宅ローンに四苦八苦しなから、子どもの成長を楽しみに暮らしていた、どこにでもいる平凡な主婦をしていた私を絶望

のどん底につき落とされたのは、元夫の借金でした。いつ始まったのか今でも定かではありませんが、遊び癖、浪費癖でサラ金から借金をし、私のささやかな幸せも、もう砕け散ってしまいました。

もう一緒に暮らしたくないと思いつながら、子どものこと、自分の生活力のなさを見ると、何とか生活を立て直そうと、実家からお金を借りサラ金を清算し、元夫ともう一度やり直そうとしました。フルタイムのパート、家事、育児、子どもにまつわるいろいろな役員。本当に寝る時間だけが、自分の時間というような毎日でした。

結局、元夫の借金癖は治らず、1年間でまた同じ額の借金を作り、挙げ句の果てには、自分から交通事故故を引き起こしてしまいました。

人は人を変えることもできない。これば、救うこともできない。これが、私の結論でした。住む所と仕事があれば何とか生きていけると、家を出ました。引越をすませ、休む間もなく仕事探しを始めましたが、この不況と年齢の問題、そして、少しでも多くの収入を望む私の職探しは空回りするだけでした。自分には何ができるのか、何がしたいのか、もっとじっくり考え、行

動したら良かったのかと思います。が、その時は必死だったので、随分遠回りもし、幾つか勤めては辞めたりもしました。

今は介護ヘルパーを目指し、それに少しでも近い仕事をと、家政婦紹介所で、ベビシッター、家事援助などの仕事をしています。そこではヘルパー2級の資格取得の道も開けるので、資格を取るまで頑張ろうと思っています。自分が一生懸命生きること、高齢社会の役に立てればと思います。

平凡な主婦から一転し、46歳でバツイチとなり自立の道を強いられました。が、離婚して本当に良かったと思える毎日です。離婚前は、こ

の年で人生をやり直せるのか不安でしたが、自分の気持ち次第で、いくつになってもやり直せると思います。

親が離婚し、田舎から都会に移って生活環境が変わる中で、子ども達はどうなるのか一番心配でしたが、子ども達は何事もなかったかのように、淡々と、また楽しそうに学校生活を送っています。子どもなりに考え、納得し、前を見つめて頑張っているのだらうと思います。子どもは案外後を振り向かないのかも知れません。ひたすら前を向いて歩いて行く子どもと共に、本当の自立への道を目指し、頑張るって歩き続けようと思います。

家計簿内訳 (1999年9月分)

〔収入〕

給与（手取り）	150,000円
児童扶養手当	47,370円
兄弟からの援助（家賃分）	120,000円
計	317,370円

〔支出〕

家賃	120,000円
食費	65,000円
水道光熱費	25,000円
保険料	3,600円
新聞代	3,720円
教育費	6,701円
塾	17,850円
習い事	11,235円
小遣い（子ども）	3,000円
小遣い（私）	15,000円
雑費	20,000円
計	291,106円

※残高は衣服・交際・娯楽費等に使います。

◆◆◆ 世話係紹介・ハンド大分 ◆◆◆

●大分県福祉施策・母子家庭の人
づくり塾「しらゆり塾」に参加して

(35歳)

大分県では平松県知事を塾長にした、母子家庭(死別を含む)対象の人づくり塾「豊の国しらゆり塾」が、福祉施策として毎年開催され、今年で16回を迎えました。

その目的を、母子家庭の母親が広い知識を深め、生活の向上を図ると共に、地域の母子家庭のリーダーを育てることとし、4月から11月の半年間、月に1度のセミナーで学ぶのです。

私も昨年参加しましたが、入塾式の頃の私は、離婚3年目で仕事に落ち着かず、日々「母子家庭」というプレッシャーにひどく緊張していました。経済的なこと、子育て、まだ見えぬ10年後、20年後の言い知れぬ不安。厳しい現実、より良く行きたいと選んだ「離婚」という選択に、全く自信がなくなっていました。

半年の「しらゆり塾」の講義に参加し、新しい「出会い」と深い

「知識」を学ぶ機会を得ることができ、改めて自分自身の選択に、人としての「自信」を取り戻し、「たくましさ」を確信することとなりました。

講義は、福祉行政、子育てや介護、法律問題、環境問題と多岐に渡り、最新の情報とジンとくる話に溢れ、実践的な充実したものでした(プログラム参照)。

養護施設、児童教育の現場の先生方の子育てについての講話は、壮絶なもので、母親が前向きに明るく生きていくことの大切さを痛感し、度々とらわれがちであった、母子家庭であるという引け目や焦りは薄れ、「どんな生き様を子どもに残そうか」と、日々ワクワクしながら子どもとの生活を楽しめるようになりました。

福祉行政、介護、法律の講義では、母子相談員、県の福祉課の方々、弁護士さんとディスカッション形式で、県の母子福祉について、詳細に教えて頂きました。

本心に「知らぬは損」で、資格取得のための奨学金制度や家庭介

護人派遣制度など、私たちの生活をサポートする制度がかなりあることには驚きました。実際、小・中学校の学用品や給食費などを一部援助する就学援助金制度を知らずにいたという方もいました。

また、介護や相続など、私にとって問題意識が薄かった分野も、いずれば自分自身の問題になると、気づきの連続でした。

相談窓口の連絡先や制度の利用法、解決方法まで、具体的に知ること、何もかもが不安に感じていた生活も落ちつきを取り戻した気がします。

また、講義と並び、力強く心を

支えたのは、塾生との新しい出会いでした。ほやほやの母子家庭でハラハラした生活の人、女手一つで頑張った子どもを育て上げたベテランのお母さん、それぞれが一家の大黒柱として、母として、家族の中心になって生きようとしていました。

母子家庭の生の声、彼女達のたくましさに触れ、「よし、私も頑張るぞ!」と触発され、生きる流れ、パワーを変えたとも思えます。

県内市町村に参加人数の枠があり、参加条件(概ね45歳未満、各福祉事務所の推薦を受ける等)があり、45名程度と定員が限られている

▼第15回「豊の国しらゆり塾」研修内容及び日程
(平成10年度)

回	日時	演題・講師
1	6月17日(水) 9:50~15:00	オリエンテーション 概要・日程説明
		入塾式
		講話「母子世帯の現状と母子福祉行政」 児童家庭課主幹兼母子福祉係長 大塚 淑子
		自己紹介 城別意見交換会「母子福祉行政とわたし」
2	7月7日(火) 10:30~15:00	「共にあること」 光の園白菊寮長 浜田多衛子 「家庭生活と法律」 弁護士 立花 昌子
3	8月7日(金) 8月8日(土)	交流会・レクリエーション 一泊研修バス旅行(子ども同伴)
		座談会「母子家族福祉活動について」 県母子家族福祉連合会長 後藤スミ子
		「巣立ちへの子育て」 荒金 学
4	9月8日(火) 10:00~14:30	豊の国しらゆり塾生・母子相談員 都市母子福祉会員(指導者)合同研修会 ・特別講演 ・研修
5	10月13日(火) 10:00~15:00	介護研修
6	11月中旬 10:30~15:00	卒塾式
		卒塾生交流会 ・塾長講話 ・意見発表 ・懇談会

ので、残念に思いますが、卒業生が各地域でサークルを作ったり、フリーペーパーを発行したり、活発に活動しているとの報告もありました。

私自身も、この「しらゆり塾」に参加して、不安から抜け出し、活力を得ることができました。学んだ知識を一人のものとしてとどめず、地域の中で役立てるよう努力していきたいと思っています。

●「幸せとは何だろう…」

(46歳)

「シングルマザーの」と申します。最近はこの会に行っても、さっぱりと言えなくなった。こだわりがなくなったのか、自分をさらけ出せるようになった。

「バツイチ」とは言わない。「マルイチ」の…です」と言う。私にとって、離婚という出来事は、人生にとって「×」ではなく、「◎」くらい私を豊かにしてくれた。

離婚が私の原点となって、私を一人の人間として大きく育ててくれたような気がする。大袈裟かも知れないが、人間として一人歩きできる出発点だったと思う。

少し、歩いてきた道のりを振り

返ってみたい。23歳で結婚、30歳で離婚。現在46歳なので、離婚してから16年の歳月が流れた。長いようで早かったな。

離婚当時1歳と3歳だった子ども達も、現在、息子19歳、娘17歳となった。当時、保育園のお迎えに行くと、「ママ、お帰り」と言っていて、私に飛びついて来た子ども達が、今では用事のある時だけ、「お母さん」と言い寄って来る。離婚当時は、この子達と生活していくことだけで精一杯だった。

先の見えない不安感や怯えはいつもあった。いろいろ考える余裕もなく、前だけを見て頑張り続けてきた。子ども達が高校生になった最近、自分でもよく頑張ってきたなと、自分で自分をほめてあげた。しかし、何か大事な忘れ物をしてきたような気持ちになった。その



大切な忘れ物とは何だろう？

私がかむしゃらに頑張った分、二人の子ともは自分というものを表出せずに、良い子を演じ続けてくれた。「片親にしては素直な良い子に育っているわね」とか、「お母さんが一人で大変なんだから、頑張らないと駄目よ」とか、「男の子なんだから、お母さんを助けてあげないとな」等々、世間の人は言いたいことを言う。

私は、そんな世間体のために明るい笑顔を作り、世間のために頑張る、世間のために子育てをする母親をいつの間にか必死で演じていた。私自身走り続け、頑張り続けることで、何かが解決しているような気がしていた。

「…さん、いつも明るいわね、よく頑張っているわね」という、世間の評価を気にしながら生きてきた。

三人共、真面目にまじめに走り続けてきた。でも、何故だかいつも胸のあたりが息苦しかった。

それは、「お母さんはあなた達のために頑張っているのよ。だから、あなた達も頑張ってよ」と、無言の態度や言葉で子ども達に押し付けていたのだと思う。子ども達は、

お母さんに心配をかけない良い子をいつも演じ続けてくれた。私が、世間に対して頑張る良い母親を演じていた分、あなた達に頑張れないはずはないと、良い子を演じることを求めているのだ。

子ども達は苦しくて、きっと、心の中で私を何度も殺していただろう……！

何のために走り続けて来たのだろうか……。幸せになるためではなかったのか……。幸せとは一体何だろう……。

私は疲れていた、頑張ることに。何とかしようと、頑張れば頑張る程に、何かが遠退いていく気がした。「幸せとは、私が私のために生きることに。そんな簡単なことに、やっと最近気がついた。長い、長い時間がかった……。けれども、今、生きる喜びや些細なことに感動することのできる私がここにいます。

今、生きていることを体中で感じたい。今、この瞬間を喜びたい！今のこの気持ちを純粋に感じ、素直に表現したい。何かを表現すること、ものを創作すること……。私は、本来の自分とやっと巡り逢えた。

「さあ、歩き出そう！」

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。
みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどうぞお寄せください。

■夫の実家から援助をもらいたい
Y・H（大阪・47歳）

夫と暮らすのは、心身共に疲労が重なるということでした。仕事が無いと言いつつ、働きたくない夫の代わりに、短期アルバイトやポスティングを通常の仕事にプラスして疲労困憊しているのに、ワーカーホリックだの、家事をやらないだの執拗に言ってきました。結婚生活24年の間に、私は身動きが取れなくなっていました。暴力や言葉の暴力にさらされて、自分でも気づかないうちに自尊心を失くしていたのだと思います。

別居して1年が経ち、やっと本来の自分が心の中から顔を出してきたと感じています。過去のこと、「冗談じゃないわよ」と、やっと言えるようになってきました。今、一番関心のあることは、これからの生活のこと。一応パートで仕事をしていますが、他にアルバイトを2つやって、今の収入（年収200万円）です。自分が非常に不安定なので、何かもう少し確

実な仕事を見つけないのです。今年中に、ヘルパー2級の資格を取って、福祉の仕事の方へ足を踏み入れようかなと計画しています。通信教育で社会福祉士の資格を取ることも考えています。かなり大変だろうと思いますが……。

それから、離婚の手続きを進めること。一番困っているのは、夫の収入も貯金もなく、実家から援助を受けて生活していることです。宅配のバイトなど、季節に合わせやってはいるようですが、こういう状態だと、慰謝料は受け取れないですね。

でも、この24年間、私がしてきたこと、夫がしてきたことを思うと、このまま別れてしまうのはどうにもできかねるのです。夫の実家から、これからの私の生活のため何らかの援助をしてもらいたいと思うのです。病気で倒れたら、収入は即なくなり、貯金もゼロ。夫は両親の家を相続できますが、私は住む家もお墓も自分で準備しなければなりません。これからどう

東海村に原子力事故発生！

9月30日（木）に、茨城県東海村の核燃料製造会社「JCO東海事業所」で臨界事故が発生、作業員3名が病院に運ばれ、その他職員等46名も被爆、また臨界収束のため冷却水抜き等への従事者14名が被爆するという、日本の原子力史上類を見ない最悪の事故となりました。

午前10時35分に、エリアモニター（臨界警報装置）が吹鳴し、作業していた3名のうち1名が嘔吐、10時45分に救急車が到着、11時10分には職員全員が事業所敷地内から退避していたのにも関わらず、住民へは、12時35分の村の放送により初めて事故の発生が告げられました。このような政府の対応の遅さに憤りを感じます。

10月1日午前9時20分に臨界は収束を得たと発表、午後には10キロ圏内住民への屋内待避が、翌日午後6時半350メートル圏内の退避が解除されました。政府は農作物への影響はない等、「安全」を強調していますが、住民には、地域の放射線量のデータ等、一切明らかにしていません。

また政府は、JCOは事業許可申請書に記載されている手順と違う

方法（裏マニアル）で10年前から作業していたとし、またJCO幹部も、今回はマニアルにもない方法で3名が作業していたと、責任逃れの回答をしています。

事故当日、円より子は参議院の委員派遣で欧州へ行っていました。が、ニュースを聞き、茨城県のハンドの会員を初め、知人の方々へお見舞いのお手紙を出しました。

今回の事故は東海村だけの問題ではなく、日本全国の原子力施設、周辺施設に対する、政府の管理体制の問題であると思います。近隣に施設のある方々は、明日はわが身と、本当に怖い思いをされたのだと思います。小淵首相は「原子力防災対策法」を作ると言っています。が、ただ条文を規定するのではなく、実効性のある法を望みます。

●見舞い状のお返事から

事故のあった会社は、自宅の2、3キロの所にありますが、連絡が遅く、勤務先の小学校へも2時半頃に連絡が来ましたが、児童は体育を外でやったり、昼休みも校庭で遊んでいました。人体への被害も全くわかりません。国の管理のずさんさに憤りを感じています。

K・T（那珂町）

していいか、つまずいているところ
です。

成功した事例やもう一步踏み出すための知恵ある言葉がほしいと切に思います。

■和歌山でも会合を開いて欲しい

N・S (和歌山・31歳)

和歌山に住んでいるので、仕事上、交通上、大阪まで行きたくてもなかなか行けません。友達もたくさん欲しいし、お互い困っていることなど話し合いたいと思っています。和歌山で会合を開いて頂けたらと願っています。

お便り・お電話下さい

■突然別居を言い出されました

Y・N (千葉・50歳)

下の娘が成人したのを機に、夫が突然別居を言い出し、そのまま家を出て行ってしまい、4か月経ちました。

今まで、何事もなく平凡な家庭だったので、青天の霹靂。なぜ? どうして? 自己嫌悪、自己喪失感で、立ち直ることができません。最近女性問題が原因とわかり、別れたいと言いました。

これからのことを思うと、不安でどうしたらいいかわからず、泣

いている毎日です。娘二人に精神的に助けられています。心の整理ができません。同じような立場の方、経験者の方、また男性の考え方もお聞きしたいと思います。ご連絡お待ちしています。

※匿名の方には表記事務局円より子宛にお送り下さい。転送します。
■幸せは倍に、哀しみは半分に

Y・H (徳島・?歳)

昨年末に、子どもを連れて実家に帰りました。数カ月悩んだ末、調停を申し立て、子どもを預けて仕事を探そうとしていた矢先、夫とその両親に子どもを連れて行かれてしまいました。弁護士に頼み、「子どもの監護人の指定」の審判の手続きを始めました。

1回目の調停がありました。私の目の前で子どもを連れ去るような真似をしておきながら、「まだ好きで離婚したくない」という夫に呆れ果ててしまいました。

徳島、または近郊の方とお話しし、お互いに「幸せは倍に、哀しみは半分に」できたらいいなと思います。お便りお待ちしております。

■思春期の息子の子育てが心配で

M・M (大阪・39歳)

調停、裁判を経て離婚し、もう

東京都の児童育成手当が危ない!

東京都では、都内在住のひとり親家庭に対して、その児童(18歳に達した日の属する年度末以前の子)1人につき月額1万3500円支給する、児童育成手当という独自の支援施策を行っています。

ところが、都の財政危機を理由に、来年度から①所得制限の引き下げ、または②給付金額の引き下げという見直しを検討しています。

東京都は7月29日に「財政再建推進プラン」を出し、平成10年度決算で1068億円と過去最大の赤字となり、財政再建の方策を講じない場合、毎年6000億円を超える財源不足が見込まれるとし、12年度からの4か年で、財政再建を目指すとしています。そして同日、副知事は「平成12年度予算の見積もりについて(依命通達)」により「財政再建推進プラン」で示された見直しの視点に基づき予算見直しを出すよう通達しました。

また、都福祉局が8月に出した「福祉施策の新たな展開」の中の、ひとり親家庭への施策として「児童育成手当、ひとり親家庭医療費助成制度を見直します」と明記さ

れています。

9月に都の担当課児童手当係に連絡を取り説明を求めると「局全体の見直しが求められていて、現在案を作っている。考えられる選択肢は、①所得制限を引き下げる、②給付金額を引き下げる。12月の都議会定例会期で先に政策決定するか、来年度の3月定例会期に、政策決定と予算を同時にかけるかである」との回答がありました。

そこで円より子が急遽、都議会の馬場都議(民主党東京)に連絡を取ったところ、「都の各局が予算要求案を11月末までに出し、財務局がそれを調整し、12月末か年明けまでに予算案を編成、3月の定例会期でかけられる」とのこと。11月に福祉局がどのような予算要求を出してくるか見守るよう、都議にお断いをしました。

今後も都議と連絡を取り、今ある福祉施策が実際にきちんと機能しているかの点検も含め、児童育成手当、ひとり親家庭医療費助成制度が改善されないよう、働きかけていきたいと思っています。皆さんにも、署名等お願いすることがあるかと思いますが、ご協力お願いします。

すぐ5年になります。

2年前までは、精神的にも不安でしたが、この頃やっと落ち着き、平凡な毎日を送れるようになりました。5月に、勤めていた会社が自主廃業してしまい、失業中です。なんとなくのんびりしてしまっていて、中2の娘には「早く、働きなさい」と言われていますが、小6の息子には「お母さんが家にいると、ちょっと嬉しい」と言われて、もう少し家にいようかなーと、思っています。別居してから9年間、走り続けてきたので、少し休憩しても良いかなという気分です。今の悩みは小6の息子のことです。前述のような可愛いこともたまには言っていますが、この頃別れた父親にべったりになってきて(月2回のペースで会っています)、少し困っています。私にも父親のことをほめちぎり、私が少しでもけなすと激怒し、私を非難します。世話をしているのは私なのに……と腹が立ってやることもあります。

あります。現実には元夫は育てられる状況ではないので、私がおもっと思いを持っていて、ちゃんと構えていたらいののかも知れませんが……担任の先生にも、「男の子には思春期からは父親が必要だ」などと言われ、考え込んでしまいました。思春期の男の子を、父親に代わる人(例えばお祖父さん、おじさん)なしに、育てた方の経験談を聞かせて頂けたらと思います。

■子どもを分けている方へ連絡を

T・T (神奈川・?歳)

現在、裁判中ですが、夫の方に息子二人(7歳と4歳)が、私の方に6歳の娘がいて、親権について今話し合っているところです。子どもを分けている方が少ないので、子どもを分けるながら面接をしている方、ぜひお話を聞かせて頂きたいと思っています。どうか、お友達になって下さい。お願いします。

■お便りお待ちしております

T・N (東京・35歳)

現在夫と別居中で、2歳の娘と暮らしています。仕事はしていません。近い将来、離婚することになるかも知れませんが、今は子どもを育てることだけを考えて、生活しています(特に3歳までは)。

★ドコモで情報サービス始めます

ドコモの携帯電話をお使いの方に、耳寄りな情報を！ 11月16日(火)から、情報ダイヤル「円より子の離婚百科」を開設します。これは、ドコモが通話料のみで情報を提供するため、ドコモの携帯電話で「#9125」(聞いてニッコリ)別居中の方、離婚された方、小さい子どものいる方、一緒に遊びに行ったり、情報交換しませんか！ お便りお待ちしております。

■どういう姿勢でいたらいのか

A・O (埼玉・?歳)

現在別居中で、4年半になります。夫は自己中心的な性格で、自分勝手な理由で家を出ました。そして1年前に、私に知らせることもなく、転動しました。

自分自身にも限界を感じ、前向きに離婚を考えていきたいのですが、踏ん切りが付きません。

別居当初、夫の姿が見えないため、管理人に離婚したと決めつけられ、態度を変えられたこともあり、離婚しても他人には知れない方が生活しやすいと、実感させられました。偏見の中で他人の目にストレスを感じ、精神的にも今より更に疲れてしまいそうで心配です。

と覚えて下さい。)をダイヤルすると、離婚の手続きや、財産分与や慰謝料、養育費、子どもへの配慮についてなど、離婚に関するいろいろな情報が聞けます。一人で悩まないで、ダイヤルしてみてください。

※この情報ダイヤルのサービス提供エリアは関東甲信越のみです。

仕事は正社員として、結婚前より勤めていて、小6の子どもの扶養手当、健康保険も私に移してあります。何も問題がなければ、会社にも知らずにいたい位です。

近所では、単身赴任で通していますが、実際に離婚したら、会社また、生活の面でどういう姿勢や気持ちでいればいいのか等、現在悩んでいる方、また克服された方、ご意見をお願いします。

世話係より

■ハンド香川の活動報告 (香川・48歳)

9月18日(土)午後2時から4時半まで、私の職場で例会を持ちました。入会を考えている方と、徳島で世話係をしようかと考えている方とそれぞれのお嬢さん1名ずつの5名でした。

ただ話をしたり、聞いたりの2

◆ハンド福島県の会合報告◆

世話係・

ハンドの皆さん、お元気ですか？
ハンド福島では、去る9月18日（土）に、いわき市久之浜町で、久しぶりに会合を開きました。

参加者大人5名、子ども1名。目の前に海を眺めながら、新鮮な魚貝類のお刺し身に海老のジャンボ天ぷらの付いた、ゴージャスな「浜定食」に舌鼓を打って、お腹を満たした後、太平洋の海の香に包まれながら露天風呂に入り、互いに「垢すり」をし合い、親睦を深めました。短い時間でしたが、大変楽しく、良



い交流ができました。

福島県内のシングルマザーのネットワークが、もっと広がって会合が開けたら、と願っています。相互のコミュニケーションを深めるだけにとどまらず、母子家庭を取りまく数多くの問題（例えば、就労、教育、偏見や差別、福祉制度、介護、養育費、暴力、孤独、老い、再婚など）について、継続してじっくり話し合い、対応策や改善へ向けて、具体的に行政へ働きかけられるように、一人ひとりのパワーアップが図れたらと考えています。

決して自分一人が苦しんだり、悩んだりしているのではないということ、互いに知り、認め合うことも大切な一歩だと思います。

以前、円さんが「母子家庭の問題は全ての女性の問題である」とおっしゃっていましたが、経済的に不安定な離別母子家庭を取りまく一つ一つの事柄を、もっとたくさんの方が真剣に取り上げてほしいと思います。

また会合を開きたいと思います。会合について、楽しいアイデアがあったら、どしどしご連絡下さい。飛び入り参加も大歓迎です。

《お世話係》

- ★青森
- ★仙台
- ★福島
- ★北陸
- ★新潟
- ★埼玉
- ★群馬
- ★愛知
- ★滋賀
- ★大阪
- ★大阪
- ★神戸
- ★岡山
- ★広島
- ★香川
- ★四国
- ★福岡
- ★福岡
- ★熊本
- ★大分
- ★宮崎

時間半でしたが、あつと言う間に時間が経ちました。まだまだ苦しい状況から立ち直っていない時も、無理をせず、いろんな人に助けてもらって苦しさをつき合い、元の自分に戻るのを焦らず待とう、自分だけが苦しんでいるんじゃないと思う、などの話も出ました。話をするだけでも楽になることがあるので、あちこちに世話係がいてくれるのもいいのではないかと思います。お嬢さん2人はまだ小学生ですが、お母さんの思いを自分の年齢なりに敏感に受け止めていらっしやるように感じました。

次回例会は、11月13日（土）午後2時～4時、香川短期大学（綾歌郡宇多津町浜1-10）で行います。

お茶とお菓子を用意しています。希望があれば簡単なスポーツもできます。世話係 までご連絡を。

■ハンド大分の会合のお知らせ
（大分・46歳）
11月28日（日）午後1時～上野宅で会合を開きます。さんの転職祝と忘年会を兼ねています。たくさんおしゃべりをしましょう。

各地の支援サービスの情報大募集
前号で、各地の支援サービスの情報を募集しましたが、残念ながらお便りが届きませんでした。次号で、紹介したいと思っていますので、ご協力お願いします!!



第217・218回

ニコニコ離婚講座

時半、麹町の円より子宅でハンドの忘年会を行います。参加費2500円。表記事務所橋本までお申し込み下さい。

大阪のニコニコ離婚講座

〔11月〕11月20日(土) 午後1時～4時半、JCIビル6F(地下鉄半蔵門駅歩3分)で。芦野由利子氏(日本家族計画連盟事務局次長)の「夫婦の性と関係性―望まない妊娠と避妊について―」と金住典子弁護士との「離婚の法律と手続き」。

〔12月〕12月18日(土) 午後1時～4時半、東京ウイメンズプラザ(青山子ども城裏)で。村瀬幸浩氏(二ツ橋大・津田塾大講師)の「男性の性と心理」と金住弁護士。いずれも参加費2000円。

お問合せは事務所向井、橋本まで。
☎03-3261-1835
FAX03-3261-1836

★東京の会合

▼11月13日(土) 午後6時～9時、東京ウイメンズプラザ1F交流コーナーで行います。

▼12月17日(金) 午後6時半～8

〔11月〕11月27日(土) 午後1時半～4時半、ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)で。松尾直嗣弁護士との「離婚に関する法律について」。男性の弁護士の立場から見た最近の離婚事情、男性の本音などについてお話しします。

〔12月〕会場の都合でお休みです。
〔1月〕1月8日(土) 午後1時半～4時半、ドーンセンターで。社会保険労務士による「離婚と年金について」。

いずれも参加費1500円。
竹川法律事務所
☎06-6393-1331

★大阪の会合
11月27日(土) 午後6時～8時半、ドーンセンター小会議室で。

※いつもと時間、会場が違います。
☎06-6393-1331

★埼玉の会合

▼11月27日(土)、28日(日)に茨城県
別荘で、1泊の集いを。定員7名。

の世話係……の

会費2000円。交通費各自負担

(東京駅八重洲南口(バス)→鹿嶋神宮(鹿島臨海鉄道)→大洋駅)。

▼12月30日(木)、宅で、ハンド190号の発送と忘年会を行います。会費2000円。

いずれも詳細は まで。

☆離婚一〇番

日時 番号をよく確認して下さい。

〔電話番号〕

☎03(3261) 1835

☎03(3261) 1836

〔日時〕※時間が長くなりました。
▼第1、第3、第5土曜日の午後4時～8時▼第2、第4土曜日の午後2時～6時

★購読料について

次の3通りの方法があります。

①1年間3600円(送料共)

②2年間まとめて前払いの場合、7200円を6000円に。

③出世払いもしくは免除

どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出て下さい。

期限切れの通知の入った時に、お振りこみ下さい。

(振込先) 各地の郵便局にて

001400161120542

ハンド・イン・ハンドの会

★事務局に遊びに来て下さい!

事務局の分室は、半蔵門駅から徒歩4分。英国大使館や千鳥が淵の近くです。毎週土曜日の電話相談はこちらで行っています。ハンドや離婚講座についてのお問合せやお手紙は、左記へ。東京に来た時には、ぜひお立ち寄り下さい。

〒102-0082千代田区一番町4-6 一番町中央ビル2F
☎03-3261-1835
FAX03-3261-1836

■事務局便り■

★隣国のでき事ではない原発事故。人為的な環境破壊の恐ろしさを感じます。気分転換に、心が洗われる絵とチェコの優美なガラス器を見てきました。(荒木)

★NHKの黒田あゆみさんが、離婚通知をしていなかったからと番組を降ろされたとの報道あり。本人に確かめたら「それは誤解。個人のプライバシーと仕事は全く別」とのこと。当然のことですが、みなさんの職場でも、そうであってほしいものです。(円)